

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	教職教育研究センター(教務機構)
大項目	11 教員・教員組織
中項目	
小項目	11.0.2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
要素	編制方針に沿った教員組織の整備 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備 研究科担当教員の資格の明確化と適正配置(院・専院)
小項目	11.0.3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。
要素	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化 規程等に従った適切な教員人事
小項目	11.0.4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。
要素	教員の教育研究活動等の評価の実施 ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 教育相談活動や学校インターンシップの指導等、教育現場からの期待や要請に充分に応えるために、専任教職員等の数的充実を図り、バランスの取れた指導体制を構築する。	→教育相談活動や学校インターンシップの指導等の対応実施状況。	C	C	C	C	
2. 学校教員への採用数の増加を図るために、現状の検証を行ったうえで、専任教員を中心に増員を図り、養成・採用段階の指導相談機能を充実させる。	→教員(専任及び講師)への学生・卒業生の採用数及び模擬面接指導等の授業外講座等の開催・参加者数。	C	C	C	C	
3. 教職大学院施策に留意し、教育学部と可能な限りの連携を取りながら、変動する文部科学施策に対応できるような教員組織の編成をすすめる。	→教職課程6年制への検討・対応状況と教育学部との連携状況。	C	C	C	C	
	→1～3の目標達成のために2013年度までに教職員の増員を図り、上ヶ原キャンパスに専任教員を、また神戸三田キャンパスに専任教員及び専任職員の配置をすすめる。	D	D	D	D	

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	現在のセンター教員5人体制で西宮上ヶ原キャンパスと神戸三田キャンパス両方の教育相談活動は継続して行っている。専任教員数の数的充実が進んでいない。
目標2	同窓教員による教員採用試験の模擬面接指導を継続して行っている。またセンター専任教員の人事手続の簡素化に向けて準備を進めている。他方、教員採用試験の受験希望者の増加傾向を鑑みるに、本学専任教員の増員は必至である。
目標3	教員免許6年制の中教審答申が出た直後に政権交代があり、6年制の制度的実現の見通しが困難になった。各方面の情報の収集に引き続き努めながら、学内への情報の発信を進めている。
備考	教員免許取得希望者数の増加、100名を超える教員就職者数、教育委員会からの理数系教員の学校推薦の要望の増加、そして理工学部新学科設置という動向から、とりわけ教員増員による神戸三田キャンパスの専任教員の配置は喫緊の課題である。